

第 67 回北海道公立小中学校事務研究大会

第 4 分科会

「南宗ブロックにおける グループ研究体制の推移」

別冊資料

—資料内容—

- ①グループ研究に関する宗谷管内・
南宗ブロックの流れ（1 ページ）
- ②2010 年度宗谷管内公立小中学校
事務職員協議会研究部方針（2 ページ）
- ③テーマ別グループ研究の進め方の
提案文書（3 ページ）
- ④テーマ別グループ研究での統一フォーム
（4～5 ページ）
- ⑤グループ研究に関わるアンケート
（6～11 ページ）

—分科会で討議したい内容—

- ①今後の研究活動のためにアドバイスをいただきたい。
「もっとこうしたら良いのではないか」など、具体的に
教えていただきたい。
- ②各支部ではグループ研究をどのような体制で進めて
いますか。グループ研究を進める上で、成果や抱えて
いる課題はありますか。課題がある場合、解決に向けて
どのような取組を行った、もしくは行っていますか。

宗谷管内公立小中学校事務職員協議会

南宗ブロック

グループ研究に関する宗谷管内・南宗ブロックの流れ

○宗谷管内

年	月	概要
2010年度	5月	研究部よりグループ研究の提起

○南宗ブロック

年	月	概要	研究体制
2010年度	5月	研究部の提起を受けてグループ研究開始	枝幸グループ、猿払グループ、中頓別・浜頓別グループの3グループにてグループ研究開始
2011年度		全道研(渡島大会)にて猿払グループ問題提起	↓
2012年度			
2013年度			
2014年度	5月	総会にてテーマ別グループ研究の希望が出る →町村別グループ研究が研究途中のため引き続き町村別グループ研究を行うことを確認	枝幸グループ、猿払グループ、中頓別グループ、浜頓別グループの4グループで活動
2015年度	5月	総会にて再びテーマ別グループ研究を希望する声が出 →テーマ別グループ研究へ移行することで確認 →それまで町村別グループ研究を引き続き行うことを確認	↓
	7月	第1回ブロック研修会にてテーマ別グループ研究の提案 →2016年度からの本実施のため、2015年度は移行期間とすることを確認	
	9月	会員へ研究テーマ希望集約	
	11月	テーマ別グループ研究所属希望集約 テーマ別グループ研究メンバー決定 学校環境整備グループ、実務研究グループ、理論研究グループ、財政財務&学校徴収金グループの4グループが成立 統一フォームの作成や旅費の保証	
	12月	第2回ブロック研修にてテーマ別グループ研究メンバーの顔合わせ	
2016年度	4月	テーマ別グループ研究本格的開始(研究期間は2年間)	学校環境整備グループ、実務研究グループ、理論研究グループ、財政財務&学校徴収金グループの4グループで活動
	12月	町村別グループ研究とテーマ別グループ研究の振り返りアンケート実施	↓
2017年度			

2010年度 研究部方針案

1. 研究テーマ

「主体的な学校事務の創造を求めて」
サブテーマ「学校にてこそという立場を活かした学校事務実践を進めよう」

今年度もテーマも継続して同じとしています。自分たちが学校現場にいて、何が出来るのか、もっと出来ることはないのか、等を考えていきましょう。

2. 研究の柱

- (1) 子どものためとなる主体的な学校事務を創造しよう
- (2) 専門的力量の向上を目指そう
- (3) 「学校間連携」についての研究を進めよう

研究テーマが同じなので、研究の柱も継続します。

3. 研究の背景として

- ・あなたのしている仕事は以前とは変わったか。新採用の頃と何が変わってきた？
- ・それは経験が浅い者でも出来ることばかりではないのか？
- ・学校の役に立っていることなのか？
- ・もっと出来ることはないのか？
- ・それは一人で出来ることばかりではないのか？
- ・机の上で一人で出来ることには限界があるのではないか。
- ・助け合うという集団化を考えるのは、事務の強化に繋がるのではないか。
- ・学校勤務経験のない者には解らない、あるいは学校現場にいるからこそ出来る事務を積極的に進めよう。
- ・事務の繋がりをつよくし、より事務の可能性を広げよう。

と、このように考え、「学校にいてこそ学校事務」の研究にグループ研究という形を今年度積極的に進めたいと思います。

4. 研究活動

横の繋がりをつよくするためのグループ研究の推進
個人研究発表の機会はブロック内にとどめ、管内研ではグループ単位で発表。
その際、グループがどのように協力したかを記録をする。
グループをどう分けるかは、各ブロックで決定する。
研究内容は各ブロックや各グループで決める。研究成果は学校に還元する。

研究部は、ブロック研究大会の推進役として、ブロック内のグループ研究を提唱する。

2015年7月15日

宗谷管内公立小中学校事務職員協議会
南宗ブロック

今年度以降のグループ研究の進め方の提案について

1、経緯

以前の南宗ブロックの総会や今年度の総会で、グループ研究について、グループの集まりの悪さ等のグループ構成についての意見があったことから、今年度南宗谷ブロック役員会で検討を行い、以下のように提案させていただきます。

2、提案内容

昨年度までの町村単位のグループ研究を今年度は主として継続するが、次年度以降は任意とする。今年度よりテーマ別単位でのグループでのグループ研究を設定し、次年度より主として行う。(テーマ別にするによって積極的に研究活動に参加できるようにしていく。)今年度はテーマ別グループに円滑に入っていけるような移行期間とする。

3、新グループでの研究の手順について

- ①研究テーマの集約（会員より）
- ②各研究テーマの決定（テーマ数等については集約後に役員会にて決定する。）
- ③グループのメンバー決定
- ④研究活動開始

*今年度から研究活動を進めていけるようにしていく。

※研究期間は2年（今年の研究分は含めない）とし、2年間の研究終了後、テーマ別グループ研究について総括をし、その後のグループ研究の方針を決定する。

※旅費の措置については、各グループの様子を見ながらということとなるが、サービスの関係もあることから検討を進めていきたい。旅費または補助が支給されない可能性も考えられる。

まだ内容は完全には詰めきれっていません。新しい取り組みとなりますので、会員全員で創りあげていきましょう。さまざまなご意見をお願いします。

日程調整フォーム

各校事務職員(宗事協会員)様

年 月 日

開催案内フォーム～学校長宛

学校長様

年 月 日

宗谷管内公立小中学校事務職員協議会
南宗ブロック
〇〇〇グループ代表 〇〇 〇〇
(〇〇町立〇〇〇学校)

宗谷管内公立小中学校事務職員協議会
会 長 〇 〇 〇 〇
南宗ブロック
〇〇〇グループ代表 〇 〇 〇 〇

宗谷管内公立小中学校事務職員協議会

〇〇〇〇年度〇〇グループ研修会日程調整について

各会員の皆様いつもお世話になっております。
第〇回目のグループ協議に係り、日程調整を行いたいと考えておりますので宜しくお願
い致します。

〇〇町立〇〇〇学校 〇〇宛
学校名() お名前()

参加可能な日に○をつけてください。上段～午前、下段～午後
場所・・・
時間・・・

月	火	水	木	金
〇/〇	〇/〇	〇/〇	〇/〇	〇/〇
〇/〇	〇/〇	〇/〇	〇/〇	〇/〇

お忙しいなか申し訳ありませんが、〇〇月〇日(〇)までにFAX(〇〇〇学校
〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇)またはメールで返信をお願い致します。

宗谷管内公立小中学校事務職員協議会南宗ブロック

〇〇〇〇年度〇〇〇〇グループ研修会の開催について

〇〇の候、貴職におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
また、日頃より本研究会の活動にご理解ご協力をいただいておりますこと、深く感謝申し
上げます。

さて、本協議会のグループ活動として、下記内訳の通りグループ研修会を実施させて頂き
くこととなりました。

つきましては、公務多忙の折りとは存じますが、貴校職員の出席につきまして特段のご配
慮を賜りますようお願い致します。

記

1. 日 時 〇〇月〇〇日(〇) 〇:〇〇～〇〇:〇〇
2. 場 所
3. 内 容

4. その他 旅費につきましては、当協議会で支給しますので、服務上は
「出張」扱いで参加させていただきたくお願い致します。

講師派遣依頼フォーム

学校長様

年 月 日

開催案内フォーム～事務職員宛

事務職員様

年 月 日

宗谷管内公立小中学校事務職員協議会

会長 ○ ○ ○ ○

南宗ブロック

○○○グループ代表 ○ ○ ○ ○

宗谷管内公立小中学校事務職員協議会

会長 ○ ○ ○ ○

南宗ブロック

○○○グループ代表 ○ ○ ○ ○

宗谷管内公立小中学校事務職員協議会南宗ブロック

○○○○年度○○○グループ研修会に係る講師の派遣依頼について

○○の候、貴職におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本研究会の活動にご理解ご協力をいたしておりますこと、深く感謝申し上げます。さて、本協議会のグループ活動の充実のため、グループ研修会を実施させて頂くこととなりました。つきましては、時節柄何かとご多忙とは存じますが、グループ活動の充実を図るため、次のおり貴所属職員の派遣について特段のご配慮を賜りますようお願い致します。

記

- 1. 講師をお願いしたい職員
事務職員 ○ ○ ○ ○
- 2. 日 時 ○ ○ 月 ○ ○ 日 (○) ○ ○ : ○ ○ ~ ○ ○ : ○ ○
- 3. 場 所
- 4. 内 容
- 5. その他 旅費につきましては、当協議会で支給しますので、服務上は「出張」扱いで参加させていただきたくお願い致します。

宗谷管内公立小中学校事務職員協議会南宗ブロック

○○○○年度○○○グループ研修会の開催について

○○の候、貴職におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本研究会の活動にご理解ご協力をいただいておりますこと、深く感謝申し上げます。事前に日程調整等にもご協力いただき、ありがとうございます。さて、本協議会のグループ活動として、下記内訳の通りグループ研修会を実施します。つきましては、公務多忙の折りとは存じますが、ぜひ参加されますようご案内申し上げます。

記

- 1. 日 時 ○ ○ 月 ○ ○ 日 (○) ○ : ○ ○ ~ ○ ○ : ○ ○
- 2. 場 所
- 3. 内 容

※事前に参加集約はしておりますがご参加頂けないときはご連絡ください。

グループ研究に関するアンケート集約結果

2016年12月15日実施

1. 【町村別グループ研究】について

I. 所属していたグループで感じたメリット・デメリット

町村名	メリット	デメリット
枝幸町	<ul style="list-style-type: none"> ・町研サークルなど事務職員が集まることのできる際にグループ研究を設定でき、比較的集まる機会がやすい。(4) ・学校の規模も様々で人数も多いため、いろいろな交流ができた。 ・行事・備品の情報共有ができた。 ・保護者負担の一覧を作成することで、状況交流ができた。 ・教職員向けに施設や自己負担状況にかかわるアンケートを取ることができた。 ・教職員負担軽減の取組にかかわって、他機関との連携を試みた。 ・経理などは共通なので話がしやすい。 ・同一町村内の学校同士ということで、「町の公費の効率的執行」という共通する課題について取り組むことで、実務に繋がながら課題解決に向けて取り組むことができたこと。 ・学校安全にかかわる研究（ワックス等）や、石狩の学校間連携会議の教職員向けアンケート等を実施し、町内の課題を明確にすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校規模の違いにより、子どもや学校の共通課題を見つけるのが難しかった。(2) ・人数が多いため、全員が集まらなかったり、リーダーに任せきりになりがちだった。(2) ・人数が多く、認識の共通化ができて取組に差が生まれてしまった。(2) ・事務職員未配置校との連携が取れていなかったり、他機関との連携が上手くいかず、事務職員単独の取組になり、周囲の誤解を生んでしまった。(2) ・ほぼ1度も全員が集まってグループ研究を行うことができなかった。(2) ・課題設定は容易であったが「町村別」という縛りがある以上、そのグループ研究が本当にやりたいことだったかという疑問が残る。(3) ・単年度の取組が多く、研究としての深まりがなかった。 ・町村に長く在籍している方の意見やベテラン勢の意見が主に反映されそう。 ・転入1年目や初任だと何もわからないため、意見を出しづらいう。
猿払村	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体を持つ教育課題を共有しやすく、『学校間の連携』を進めるには都合が良かった。(4) ・集まりやすい。(3) ・村研サークルでの研究にもなったため、課題を明らかにして全校統一で予算要望の際に教育委員会と話をすることができた。(2) ・物理的に近いので実際に現場に赴いて見学することが楽であった。(2) ・村内にいろいろな学校種の違い・規模の違い・経験の違い等がいろいろいる視点での交流ができた。(2) ・同じ村内なので継続した取り組みが可能であった。(2) ・学校間の距離は離れているが、教育研究会の自主サークルのタイミングを利用しながらリンクして実践することができた。 ・別の用事の時にでも話をすることができた。 ・常に話題にして刺激を与え合うことができた。 ・同じ中学校区で集まったので共通した課題の中で討議を進められた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『課題の共有』はしたが、学校体制や事情によりグループ内で同内容を一斉に進めるのは難しい。(2) ・教育研究会自主サークルとプロック研究とリンクさせる場合は、協議会員ではない方（ときには管理職の先生や教育委員会臨時職員）の了承を得ながら進めなければならぬこと。 ・村研サークルとグループ研究が同じ構成メンバーであれば共通の取組が出来るが、団体としての住み分けを混同してしまいがちになる。 ・他の町村の様子がわからないので、他町村ならどうするかということを考える機会に恵まれなかった。
中頓別町	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が共通化しやすく、予算要望などが通りやすかった。 ・共通の課題に取り組みやすい。(財政、システムが同じであるため) ・気軽に集まりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーが固定しやすく、マンネリ化して新たな課題が出てきづらい。 ・町村の規模によって人数にばらつきがある。 ・簡単に他市町村の方との意見交流等ができない。
浜頓別町	<ul style="list-style-type: none"> ・学校同士が近くにあったので集まりやすい。 ・同じ町村として見つけた共通の課題へ取り組みやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験年数の差が大きかったため、研究したい内容や研究に対して求めている水準が異なることがあった。 ・人数が少なく研究を進展させていくのが難しいところもあった。

II. 他のグループの様子を見てのメリット・デメリット

町村名	メリット	デメリット
枝幸町 ↓ 他のグループ	<ul style="list-style-type: none"> 各町村の課題解決に対してグループ全体で取り組むことができているグループがあった。 集まりやすい部分があったと思う。 共通項の多さから課題が設定しやすい。 物理的に近いので交流しやすかった。 猿払村では教育委員会や図書支援員とかかわりながら、取り組みを進めていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 浜頓別町や中頓別町のように事務職員が2人しかいないと研究しづらい気がする。(3) 人数が極端に少なく、活動が頭打ちのようになってきているグループがあった。(2) 自治体によっては、2名だけでグループ研究をしなければならず、さまざまな意見を取り入れているグループ研究ができていない。また、意欲の差によっては1人だけの負担になってしまっていることもあったのではないだろうか。 浜頓別町と中頓別町の間でのグループ研究をしたことがあったが、自治体ごととの共通の課題設定に非常に苦労していたように思う。 研究と実践の境界や他団体の活動との境界が曖昧。 経験差がありすぎるとテーママを決めること自体が苦しそうだった。 経験差が大きいと交流というより教授という感じのところも見られた。
猿払村 ↓ 他のグループ	<ul style="list-style-type: none"> 一つの自治体で課題を共有し、校内→学校間→教育関係機関という連携の構造が作りやすい。(3) それぞれの地域によって環境が違う中、同じ町や村だと同じ問題での処理の方法が共有できると思う。(3) 浜頓別町と中頓別町の合同グループは、自治体を越えた協力体制があった。若い会員が多い中、町村内で経験のある方から教わる機会を持つことができていた。 立场上、『市町村立職員』として自分の学校だけでなく「自治体全体で地域の子どもを育成する」と考える土壌が生まれるのではないか？ 集まりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 浜頓別町では2～3人、中頓別町でも2人と構成メンバーが少ないため、取り組み内容を決めるのに、苦労しているように見えた。(2) 浜頓別町と中頓別町の合同グループは、自治体の違いにより共通した取り組みは難しかった。 予算要望がないうちには、教育委員会へのアプローチができずに取り組みが進められずにいた。 枝幸町は広く、人数も多いので全員が集まるのは大変そう。 学校の配置数により小学校1校+中学校1校の場合、【校種の違い】【会員であるか否か】【事務職員の意欲】の差でなかなか課題解決が難しい場合もある。 課題が硬直化しやすい。同じまたは類似するような課題で続けている感がある。
中頓別町 ↓ 他のグループ	<ul style="list-style-type: none"> 同じ町村内なので距離的にも集まりやすく、会議の回数を多く持ちやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 他町村との交流があまりできず、独善的になるきらいがある。
浜頓別町 ↓ 他のグループ	<ul style="list-style-type: none"> 同じ町村だからこそできる研究を実施していた。 	<ul style="list-style-type: none"> 人数が多すぎると意見の統一が難しいのでは。

2. 【テーマ別グループ研究】について

I. 所属しているグループで感じているメリット・デメリット

グループ名	メリット	デメリット
学校 環境 グループ 整備	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に参加できる。 ・テーマをもとに、視点をもち、取り組みができている。 ・自校の抱える課題を選択して、研究できる。 ・グループ編成時に人数調整ができる。 ・日程調整もしやすい。 ・意識の共通化が図りやすい。 ・活発な意見交流ができる。 ・他町村の会員との交流ができる。(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日程調整に時間がかかか。 ・取り組みに制限を感じる。 ・共通点を見出すのが難しい。(2) ・自校の状況が把握できず、テーマ選択が難しい・取り組めないことがある。 ・経験年数が浅く、意見を出せない場面もある。 ・予算の関係で、すぐに直してもらえないところがある。 ・リーダーへの負担が大い。
実 務 グループ 研究	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組みている。自分が興味ある研究ができる。(4) ・自由な発想で議論ができている。 ・転入者も選択できるのでよい。 ・他町村の会員とも関わりが持てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集まりにくい。日程調整が難しい。出張が多い。(3) ・直接的な「子どものためのグループ研究」となっていない。
理 論 グループ 研究	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で追求したい課題と重なりが多く、活動については満足している。 ・自分のやりたいことが明白であるため、モチベーションが保ち続けられる。 ・用語や実態・研究の歴史、学校事務の変遷を学ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集まりにくい。 ・研究したものをどのように環流していくか。研究報告会などが必要か。 ・着地点をどこまでと考えるか。
財 政 学財 校務 徴収 グループ 研究	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿って、より具体的に課題に取り組める。 ・グループ人数が適切。 ・研究を行う上での中・長期での期間設定ができる。 ・旅費措置がある。 ・他町村との交流ができる。(2) ・自校での実践に生かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集まりにくい。日程調整が難しい。研修会の回数を多く持ちづらい。(3) ・共通課題の設定が難しい。(2) ・町村をまたぐので規則等が違い、やりづらい。 ・研究をしようという感じがなく、進めるのが厳しい。

II. 他のグループの様子を見てのメリット・デメリット

グループ名	メリット	デメリット
学校環境 ↓ 他グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みに意欲的である。(2) ・協議会の歴史を振り返ることで原点を見つめ直すことができているのでは。 ・若い方が自ら学び、創造していくことはよいと思う。 ・スカイプ利用の検討はデメリット解消の観点からはよいのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集まりにくい。(2) ・管内で進めている子ども視点が抜けているのでは。 ・テーマによって年齢層や人数にばらつきがある。
実務研究 ↓ 他グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを選択できるので有意義なものになっていると思う。 ・各町村の情報共有がしやすい。 ・さまざまな意見を取り入れて研究を進めることができているのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集まりにくい。 ・3グループぐらいいいと思う。 ・ほとんど進んでいないグループがある。
理論研究 ↓ 他グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・若い方も積極的に活動に参加できているように感じる。 ・町村をまたいだ課題の共有ができる。 ・町村、校種、学校規模にとらわれない課題解決方法を見出せるのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集まりにくい。 ・うまく機能しなければ負担感や個別研究の延長となり得るのではないかと。 ・グループ外からの情報収集も不可欠。 ・会員のいない町村の状況が把握しにくい。 ・町村別の課題に向き合う時間が減った。 ・総理システムや予算要望などの動きが異なるため、合わせるのが難しい。 ・メンバーが大幅に変更になる可能性もある。
財政 ↓ 他グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・個々のモチベーションが高い。 ・テーマに沿って、より具体的に課題に取り組める。(2) ・各校での実践に生かせる。 ・基礎基本の上で次につなげられているので、よいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集まりにくい。(3) ・グループ間の交流も必要ではないかと。 ・集まらない場合は、スカイプ等を活用する方法もあるのではないかと。 ・研究というより事務処理能力の向上研修となっているグループもある。

3. 【グループ研究全体】について

I. 「町村別グループ研究」と「テーマ別グループ研究」ではどちらが良い研究となっていますか？

① 町村別グループ研究	1 名
② テーマ別グループ研究	10 名
③ もっと良い別案がある	1 名
無記入	2 名

II. I を選択した理由

①～③		記述
① 町村別 研究		<ul style="list-style-type: none"> 町村の方が集まりやすく、回数が多いということと、いろいろな課題について取り組めるし、各人の要求にも請け合えるし、途中経過や結果を直に確認しやすい。ただし、テーマ別のメンバーの距離が近ければまた違う形にもなるとも考えられる。工夫しなければ物理的な距離が精神的な距離をも遠くしてしまう。折衷案ではあるが、基本町村でグループ研を行い、それでは研究意図に合わない人が離れて他町村の人と研究するというところもできないだろうか。 研究は関心のあるテーマやより理解を深めたいテーマのもと、能動的に活動して学んでいくことだと感じます。町村別での時は、既にテーマが決まっている状態で、かつ初任だったこともあり、自分自身が全く理解することが出来なかったため、「研究」にはほど遠い状態でした。その点、テーマ別だと、自分が勉強したいテーマのもとで研究でき、スキルの向上にもつながるような気がするのです。テーマ別は選択肢があり、少しでも興味があることに對して研究できるので、町村別の時より、少しだけ研究しやすい。 町村別の研究活動は町村の教育研究会などで十分可能。 小中1校ずつの中頓別町や浜頓別町では町村の垣根を越えられるテーマ別の方が町村別で行うよりも南宗ブロックとして行うグループ研究の意義はあると思う。 町村別だと気がつかず、他町村の話を聞いて色々気がつく部分もあり、テーマ別研究にさらに厚みを増せるような気がする。ただし、やはり集まる場面は工夫が必要。 テーマ別グループ研究を始めることになった経緯として、「意欲の差」の解消というのが、大きな部分を占めていたのではないかと思う。グループによって差があるかもしれないが、町村別よりは意欲的に研究を進められているように感じる。テーマ別だと町村の課題解決がしにくいのでは？という声もあるが、テーマ別での活動を紹介できれば町村での活動にも繋げていける。 協議会は会費を払って個人で加入する任意団体である。お金を払う以上、対価に見合う十分な活動ができるテーマ別グループ研究が良いと考える。 テーマ別研究しか参加していないので比べることが出来ないため。みんなでテーマ別研究をしようと思いついた時に、良い研究になると思い決めていると思うので。 現時点ではどちらが良いとは言えないが、テーマ別の方に今後の成果に期待を込めて。 勤務校の町では全員が協議会会員であるため、課題認識や意見交流が町研活動の中でも可能である。他市町村の方との交流、町村の規模の差による人数のばらつきを避けるためにもテーマ別グループ研究が良いと考える。 それぞれ取り組みたいテーマのもと研究ができるから。他の町村の状況も交流できるのでより勉強になります。
③ 別も 案つ がと ある いる		<ul style="list-style-type: none"> 折衷でも良い。今回テーマ別研究をやってみて必ず意義はある。その【メリット】【デメリット】を精査し、町村別研究を主軸に有志でテーマ別研究をするものもありではないだろうか。負担が増えると思うかもしれないが、通常行っている「個人実践レポート」はグループ研究と別に考える必要はない。今回のテーマ別研究の中から、今後も必要だと思うものを2本程度残し、ブロック研修部を中心に研究を進めることでブロックとしての研究につながる。そうすれば全道研の発表も負担感も減るのではないだろうか。 今後を見据えたときに、町村の垣根を越えられるならば、例えば「『中学校グループ』と『小学校グループ（2～3程度）』」など、2～3年サイクル毎にグループの集まり方の方のほうも工夫する方策などを検討してはどうか。
無 記 入		<ul style="list-style-type: none"> どちらであっても子どものために取り組むことができるといいと思うが、テーマ別だけでは課題解決が難しいと感じ始めている。取り組みの中で町村内の連携がないと、事務職員間の連携で終わってしまったり、学校での取り組みに止まったり、学校での取り組みでの取り組みとリンクさせていけるといいと思う。

4. グループ研究に対する意見

記述

- ・個人研究では限度がある。【町村別】であれ【テーマ別】であれ、意図的に共同で研究し、実践を重ねることに意味がある。
- ・町村別かテーマ別研究のどちらがいいのかというのは、今は個人の意見しか言えませんが……。今後、テーマ別を続けていくことでどちらが良い研究になっているかが見えてくるような気がします。
- ・管内やブロックの研修会で定期的に報告・交流が求められているが、その頻度が多い気がする。個人研究・実践も然り。そこからある種の疲弊感を感じてしまう。昨今の全道研への毎年のレポートなど、取り巻く状況が変わりつつあるため、一定のノルマが生じてしまうことはやむを得ないが、「子ども達のため」だけじゃなく「自分たちのため」にも、研究活動に対して向き合うためにじっくりと時間を掛けられるだけのゆとりが欲しい。
- ・町村別とテーマ別の両方を経験して、活動の棲み分けが必要だと思う。例えば、管内でグループ研のテーマ別活動があれば、南宗ブロックで町村別グループ研の取り組みを行い、テーマ別で見つけた課題への取り組みを町村別でも取り組むことで課題解決の有効的な手段となると思う。逆に、南宗ブロックでテーマ別をすれば、町村研等の場で、地域課題解決の動きを強めるなどの手立てを講ずる必要があると思う。「協議会の南宗ブロック」で捉えるのではなく、もう少し広い視野で研究を重ね、課題解決に望むことが子どもや先生方の権利を保障し、よりよい学校環境をつくることにつながると思う。
- ・ブロックの研究部提起がないため、研究の継続性や方向性を上手く示すことができているかと思った。
- ・グループ研究の目的は、これまで行ってきた子どもにも視点を置いた主体的な学校事務の実践（学校づくり）を学校の中だけで完結させるのではなく、集団での学校づくりへと発展させることにより、今まで以上に成果が上がらないか。また、各種の個人実践を組織として行うことにより実践の共有化ができて学校事務の職の広がりと資質の向上が進むのではないかと考えている。子どもも、学校課題を持ち寄り協議する場がグループ研究の基本だっただけで済みます。グループ研究の基本は子どもにも視点を置いた学校課題を持ち寄り協議する場だと思えますが、テーマ別にしたら、その目的を達成できるのでしょうか。子どもにも視点に置いた学校課題を持ち寄り協議する場をどのようにつくっていくかの議論の中で、「テーマ別」にしようという結論になったと思います。なぜ「実務」がテーマの中に入っているのでしょうか？ どういう議論でテーマを決めたのかも知りたいです。
- ・スカイブを活用するのも手段だが、やはり、顔を突きあわせての話は重要だと思ふ。
- ・南宗ブロックの中でグループ研究の手法を変えて、取組を進められることは評価できていることは評価できるのではないかと。その後どういうグループ研究体制になるのかということに関しては、多めに検討する余地がある。今回のテーマ別グループ研究は特に決めを作ることなく自由にテーマ設定をしたが、管内の方針でもある「子どものための学校事務」という視点を本来であれば入れなければならなかったのではないかと。思う。
- ・町村で取り上げた方がいいテーマとテーマ別で取り上げた方がいいテーマが存在しているのは周知のことと思う。したがって、それを見極めずにグループ分けをしても物理的なハンデイクヤップのある宗谷では上手くいかないのは当然の結果と言える。仮に都市部であればそのような見極めを十分することなくもハンデイがない分上手くいくのではないだろうか。気持ちの問題というところもあるとは思いますが、そうばかりも言えないと考える。
- ・こうして書き出してみると、町村別・グループ別いづれにもメリット・デメリットがあることがわかった。所属している会員の経験年齢層・町村の課題の大きさにより、都度あり方は検討しても良いのではないかと。
- ・どちらの研究方法にしても、人の集まり具合は変わらない気がする。南宗は広いし、天候にも左右されやすいので仕方ないと思う。研究の内容をどれだけ自分の学校還元できるかについては、町村別の方が優位だと思う。町村をまたいでなにか統一した取組を行うのはその町村によって決まりことも違ってくる。実際テーマ別では、実務研究や理論研究は自分の学校よりも、事務職員のための取組になっているように感じた。それが良いのか改善する必要があるのか私には判断しきれないが、宗事協では子どものためのというテーマを掲げていたものでどうなんだろうと思つた。しかし、テーマ別の方が自分ややりたい研究をできる人が多いと思うので、やる気ができると思う。町村別だとその取組に対して温度差が出てきてしまう。